

## 上田高校卒業式に参列 3月3日

上原 昇 (2組)

初春を思わせる暖かな 3 月 3 日(土)の午前、母校の卒業証書授与式に来賓(関東同窓会会長)として初めて参列した。

上田高校の卒業式に出席するのは自分の時以来、約半世紀ぶりになる。

母校を訪れると校門前のお濠沿いに多くの父兄(保護者)が長い列を作り入場を待っている。門を潜るとまず目に入るのは、色鮮やかな和服と袴姿で着飾った女生徒たちで、我々の時代とは全く違う風景である。

今年の 116 期卒業生は母校が SGH(Super Global High School)指定第 1 期生で、人数は全日制が 8 組、317 名、定時制が 31 名、計 348 名、男女別には若干女生徒の方が多いとのこと。これも我々の時代とは大違い(65 期卒業人数は全日制 472 名(うち女子 46 名)、定時制 78 名、計 550 名)である。

卒業生クラス代表に証書が授与されたあと、今年 3 月末で退任予定の内堀繁利校長(74 期)から送る言葉が。

内堀校長は式辞の終わりに長渕剛の

“乾杯！ 今君は 人生の大きな大きな舞台に立ち 遥か長い道のりを歩き始めた 君に幸せあれ”

を朗々と歌い上げたのには驚いた。

もうひとつ驚いたのは、新 1、2 年生(在校生)の姿が殆ど見えないこと。聞いてみたら、当日が土曜日であることと、保護者の出席があまりに多いので代表以外の在校生は出なくてよいことにした。これも少子化時代のなせる現象か。

久しぶりに若々しい集団の中に身を置いて、新鮮な気持ちで母校を後にした。

(18 年 3 月 3 日記)

【卒業式の日、古城の門にて】

